

叡山懷古（榛葉竹庭）

烈火 狂飛して 萬人を 呑み

三千の 堂塔 灰塵に 變ず

將軍 未だ 信ぜず 因果 有るを

他日 濫炎 厥の 身を 包む

烈火狂飛呑萬人 三千堂塔變灰塵
將軍未信有因果 他日濫炎包厥身

解説 七八五年に開かれた比叡山延暦寺は一五七一年に越前の朝倉氏に荷担して反旗を翻したとして、信長の焼き討ちを受けた。山上・山下三千の堂塔伽藍は一屋も余さず焼滅し、逃げまどう老若男女の阿鼻叫喚で、全山は宛ら生き地獄と化したと伝えられている。

語釈 ※烈火Ⅱ激しい火。※狂飛Ⅱ気違いのように飛び回る。※萬人Ⅱ無数の人々。※堂塔Ⅱ堂と塔。仏教建築にいう。※灰塵Ⅱ灰と塵。※因果Ⅱ原因と結果。また、その関係。※濫炎Ⅱみだりにおこる火炎。

通釈 實て猛火が気違いのように飛び回って無数の人々を呑み込み、三千の堂塔伽藍は悉く灰燼に帰してしまったという。この時信長はまだ因果応報の存在を信じなかったが、他年紅蓮の炎が其の身を包んだのであった。